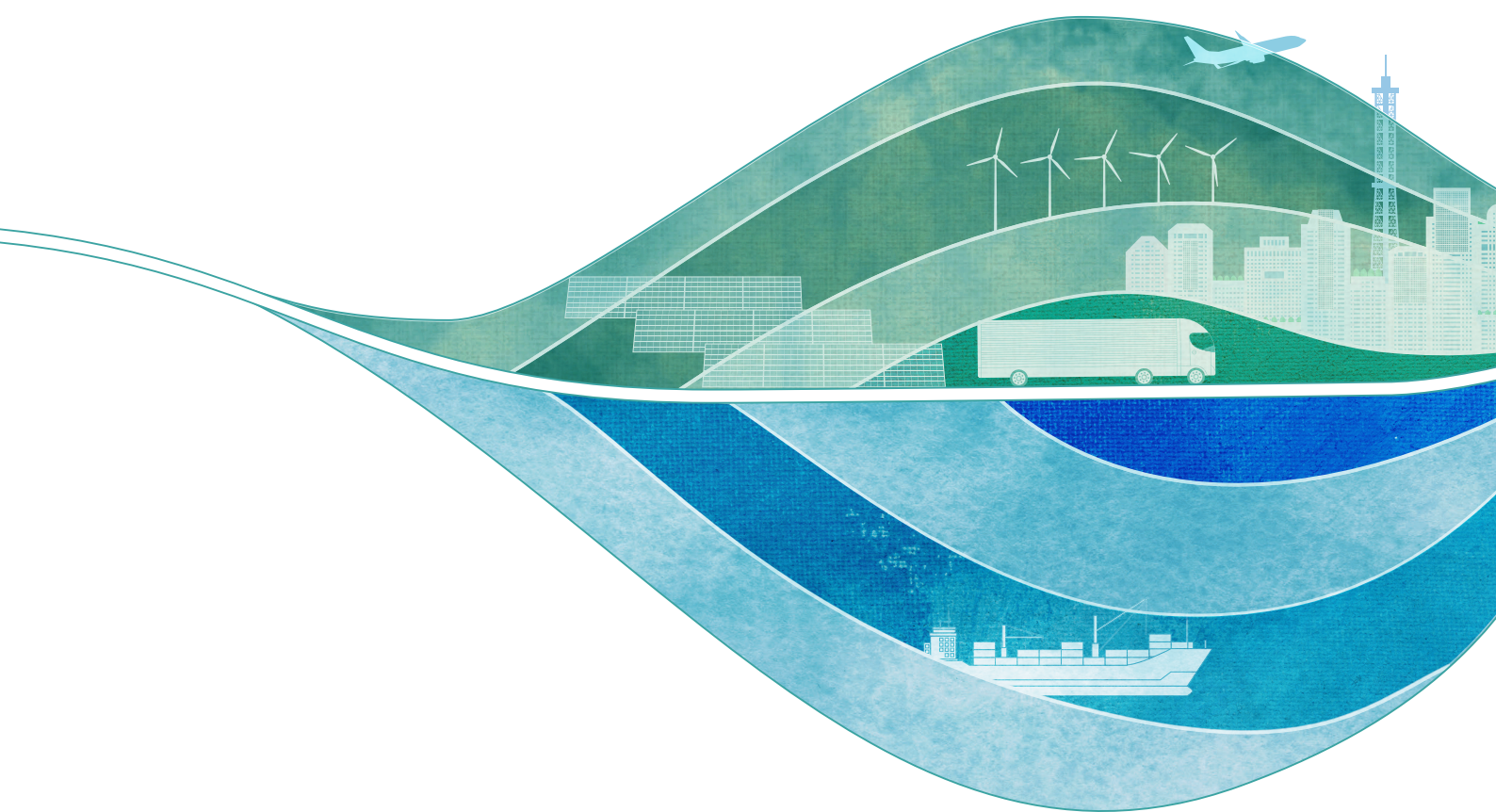
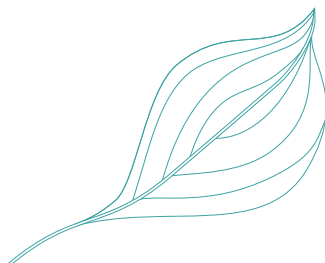


ENVIRONMENTAL REPORT 2023



INITIATIVES FOR 2022

2022 年度の取り組み

CONTENTS

- **編集方針** 02
- **会社情報** 02
- **環境統括責任者緒言** 03
- **戦略** 04-08
 - ビジョンとマネジメント方針 04
 - ビジネスモデル 06
 - バリューチェーンマネジメント 06
 - 重要な環境課題の特定方法 08
- **ガバナンス** 09-10
 - コーポレートガバナンス 09
 - リスクマネジメント 10
- **パフォーマンス報告** 11-19
 - 環境目標と実績 11
 - 環境マネジメント 11
 - 環境会計 13
 - 環境活動の取り組み 14
 - 環境負荷実績 15
 - モーダルシフトの推進 16
 - 循環型社会への取り組み 17
 - 環境啓発活動への取り組み 18
 - 生物多様性 19
- **TOPICS** 20
- **環境報告ガイドライン対照表** 21

● 編集方針

報告対象組織

ホンダロジスティクスおよびホンダロジスティクスグループを報告対象組織にしています。

報告対象期間

2022年度(2022年4月1日~2023年3月31日)の活動を中心に報告。(一部、2023年度の情報も含まれています)

基準・ガイドライン等

環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

発行時期

「環境レポート」は年1回(前回環境レポート発行日:2023年3月)発行しており、webサイトで情報を開示し、あらゆるステークホルダーへの説明責任を果たしています。

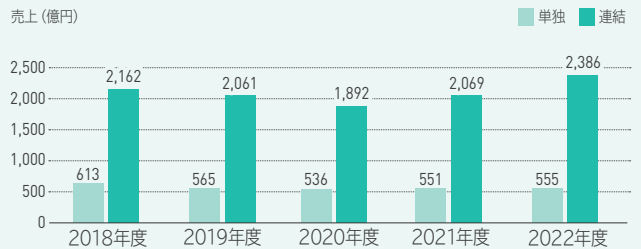
※ 本レポートにおいて株式会社ホンダロジスティクスは、“ホンダロジスティクス”もしくは“HLI”と記載します。また、“子会社”とは、HLIグループ内の国内及び海外のグループ会社を指します。

● 会社情報

会社概要

社名	株式会社ホンダロジスティクス
本社	東京都千代田区一番町6番地 一番町SQUARE 4階
設立	2006年10月1日
資本金	13億円(本田技研工業株式会社100%)
代表者	取締役社長 清水 宏
従業員	単独: 1,173名(2023年3月末時点) 連結: 16,229名(2023年3月末時点)

業績



事業拠点

本社組織	管理本部(東京)、IT本部(東京)、 経営企画室(東京)、技術本部(三重・栃木)	国内事業	日本事業本部(東京・埼玉)
海外事業	13ヶ国26法人 ・海外事業本部(東京)		・事業所: 栃木、埼玉、静岡、三重、熊本、 パーツ用品(埼玉・三重)、製品物流部(埼玉・三重)
			・輸送拠点: 輸送ネットワーク3ゾーン (北海道、東日本、西日本)

2023年4月時点

事業内容



● 環境統括責任者緒言

2023年の世界的な猛暑を受け、7月27日に国連のアントニオ・グテーレス事務総長は「地球温暖化という言葉では表現しきれないほどの《地球沸騰化》の時代が到来した」と語りました。《地球沸騰化》というワードは瞬間に世界中に広まり、共感や驚きの声が上がりました。

世界の2022年度CO₂排出量は、21年度に比べ0.9%増加し、総量368億トンと観測史上最高値を記録しました。地球環境に与える影響はさらに拡大、加速している状況となり、環境問題は“子供たちへ大切な地球の自然を残す責任を負っている”私達の重要課題であり、早急な取り組みが求められております。

こうした状況の中で、日本政府が表明している目標としては

- 2030年度の温室効果ガス削減目標を2013年度比 46%削減
※更に50%の高みへ向け挑戦
- 2035年までに乗用車新車販売における電動車100%化の実現
- 2050年度までに温室効果ガス排出を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」脱炭素社会実現

を謳っており、自動車産業界をはじめ、日本社会全体で環境負荷低減に向けた取り組みが急務となっております。

Hondaは環境負荷ゼロ社会の実現に向け、「Triple Action to ZERO」を掲げ、「カーボンニュートラル」「クリーンエネルギー」「リソースサーキュレーション」の3つを大きな取り組みをコンセプトとし、この地球上で人々が永続的に生活していくために、2050年までにHonda製品だけでなく企業活動を含めたライフサイクル全体で「環境負荷ゼロ循環型社会」の実現に向け取り組みを加速させておりま

す。また、2050年カーボンニュートラルの着実な実現に向けて、CO₂排出量を2019年度比で46%削減すると目標を打ち出しました。これは国の目標値をはるかに上回る高い目標となります。この「野心的な目標」の実現に向けて、ホンダロジスティクスもHondaグループの一員として、ロジスティクスの分野でHondaグループ各社と連携し、難題に立ち向かい、挑戦を続けていかななくてはなりません。

ホンダロジスティクスは2030年ビジョンに「包括的かつ主導的なHonda物流のリーディングカンパニー」である事と定義し、取り組みを加速させております。

これまで培ってきたノウハウを活かし、物流・輸送業務の効率向上やモーダルシフトはもちろんのこと、倉庫集約などの省エネ施策を展開し、再生可能エネルギー活用のための環境投資を進め、ホンダロジスティクスグループ一丸となって大きな難題をクリアし、ステークホルダーから信頼され、存在が期待される企業となるよう引き続き努力してまいります。

2022年までは2010年度をCO₂排出量の基準年と定め、原単位数値で毎年1%以上のCO₂削減取り組みを続けてきました。2022年度では固定源、移動源共に▲12%の削減目標に対し、固定源では▲29.3%、移動源は▲15.9%を達成することができました。

2023年度より世界的環境施策の動向を踏まえ、CO₂排出量管理の基準値を今までの「原単位」から「総排出量」へ転換し、確実な前進の見える化を図り、分析・評価を正確におこない「やるべき事」を明確にして取り組んでまいります。

今後も「次世代へ繋がる環境活動の構築と環境負荷低減への取り組み」を強化し、CO₂排出量削減の目標達成にむけた企業努力を継続的に実行いたします。

この環境レポートは、当社の環境への取り組み内容をより多くの方々に知っていただき、皆様とのコミュニケーションを深めることを目的としており、今後の環境活動へ活かしていきたいと思っておりますので、忌憚ないご意見やご感想をいただけますと幸いです。

引き続き、当社の環境活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



取締役／環境統括責任者

山下 久一

戦略

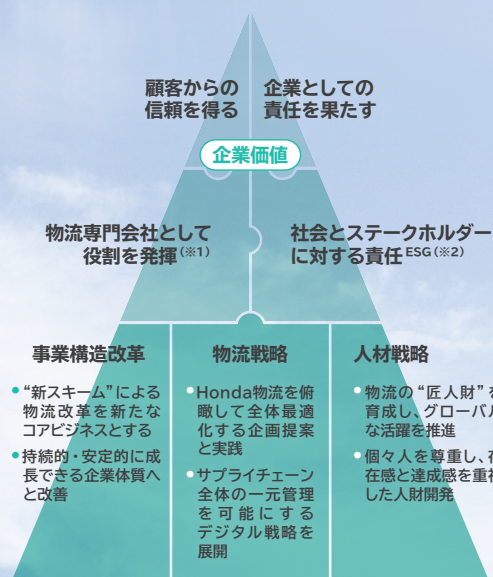
ビジョンとマネジメント方針

2030年ビジョン

『2030年ビジョン』は、私たちが目指す方向性を明確にし、HLIグループで働く全従業員と共有を図り、志をひとつにするために策定されました。私たちは、Hondaの物流にとって、「必要不可欠な存在」となるべく、Honda物流のリーディングカンパニーを目指し、社会と顧客にグローバルで貢献してまいります。

いきいき未来創造企業

包括的かつ主導的な
Honda物流のリーディングカンパニー



(※1) Honda 100%物流子会社としての責務を完遂する

(※2) 環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) の頭文字

将来にわたって実践していきたい姿

『いきいき未来創造企業』

会社は個人の総和であり、従業員一人ひとりがいきいき働くことができなければ、会社全体の持続的な発展はありません。HLIグループの誰もが自分の将来に夢と希望を持ち、明るい未来を創造していく企業を目指していきます。

ビジョンステートメント

『包括的かつ主導的なHonda物流のリーディングカンパニー』

サプライチェーンを物流の側面から包括的にマネジメントする機能を有することで、物流専門会社としてHondaの物流をリードしていきます。同時に社会やステークホルダーから存在を求められるよう、企業としての責任をしっかりと果たしていきます。これらの両面から企業価値を高めていき、「Hondaの物流にとって必要不可欠な存在」を目指していきます。

戦略の3本柱

『事業構造改革』『物流戦略』『人材戦略』

全社一体で取り組んでいくテーマとして“戦略の3本柱”を定めました。この3つの戦略を軸に顧客・社会の両面から企業価値を創造し、2030年ビジョンを目指していきます。

行動姿勢

課題
解決型
Problem solving
mentality

前向きな
思考
Positive
attitude

先手を打つ
行動
Be
proactive

課題解決型の姿勢を保ちながら
ポジティブ思考を持って
先手を打つスピード感を持って実践する

● 戦略

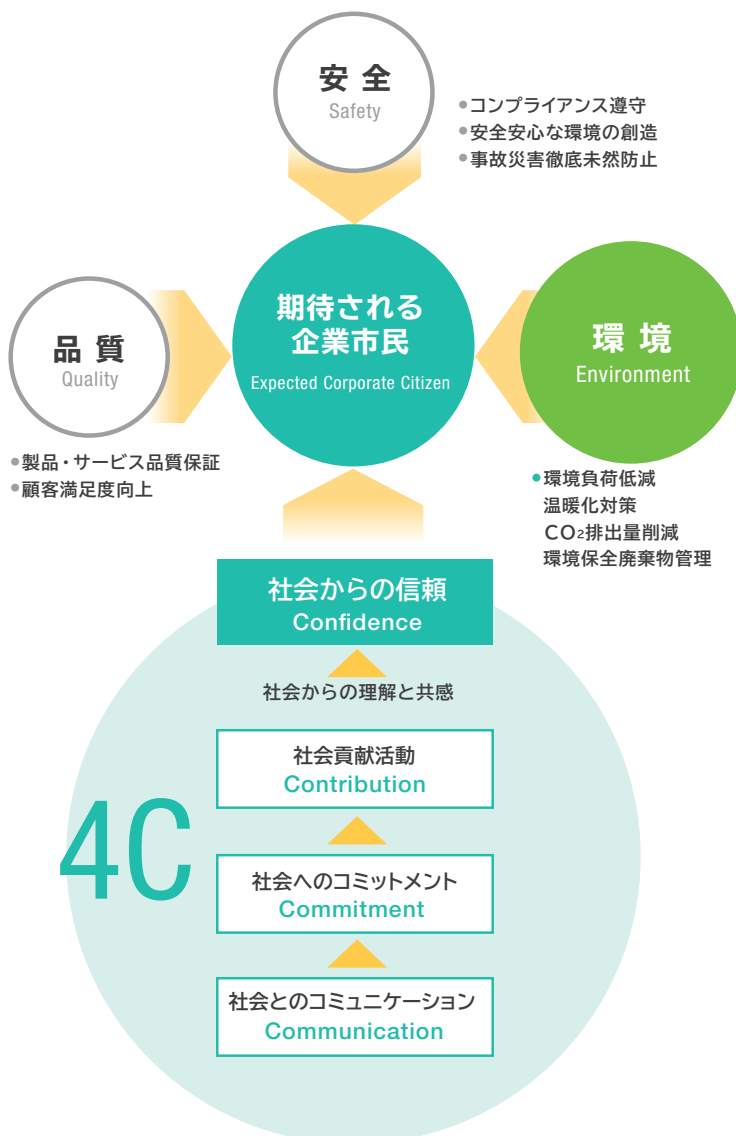
グローバル環境宣言

わたしたちは、地球的視野に立ち、社会の責任ある一員として
すべての企業活動を通じて、地球環境の保全に積極的に取り組みます。

1. わたしたちは、地球温暖化防止のため、業務の効率化をはかって、省エネルギー活動を推進し、事業活動で発生するCO₂排出の削減に努めます。
2. わたしたちは、循環型社会に対応し、廃棄物の分別や資材の再利用をはかって廃棄物の削減に努めます。
3. わたしたちは、事業活動に関連する法的要求事項やルールを理解し、順守に努めます。
4. わたしたちは、環境コミュニケーションに取り組み、地域社会との連携を図り、地球環境の保全に努めます。

安全・品質・環境への取り組み

お客様、お取引先、株主、地域社会など全てのステークホルダーから存在を期待されるコーポレート・シチズン（企業市民）となることを目指す



環境の基本的な考え方

全社環境方針

企業を取り巻く環境変化とニーズを素早く捉え
全てのステークホルダーの期待を超えるサービスを
提供するための体質強化を図る

◇環境：次世代へ繋がる環境活動の構築と環境負荷低減への取り組み

行動指針

- ①コンプライアンスの強化
環境に関連するあらゆる法令、社内規則、社会規範を遵守し、地域社会・お客様・お取引先・従業員等の信頼を高めることに努める
- ②継続的な改善
5Sを徹底し、快適な職場環境を維持構築し、仕事の“ムリ”“ムラ”“ムダ”を排除した、効率的かつ有効的な環境の改善を積極的に推進する
- ③リスクの軽減
あらゆる生産活動拠点における環境に作用する、有害性、環境負荷を軽減・除去することに努める
- ④コミュニケーション
地域社会・お客様・お取引先・従業員と適切なコミュニケーションを図り、積極的な環境活動の実践に努める
- ⑤自立・連携・協調
主体性と責任を持ち、互いに連携・協調し合いながら組織力の向上に努める

全社環境目標

◇環境： CO₂排出原単位(2010年度比) 「▲12%以上」
□固定原単位 排出量 t-CO₂/mあたり □移動原単位 排出量 t-CO₂/トンキロあたり
 環境事故発生件数 「0件」

2022年4月1日
環境統括責任者
山下 久一



● 戦略

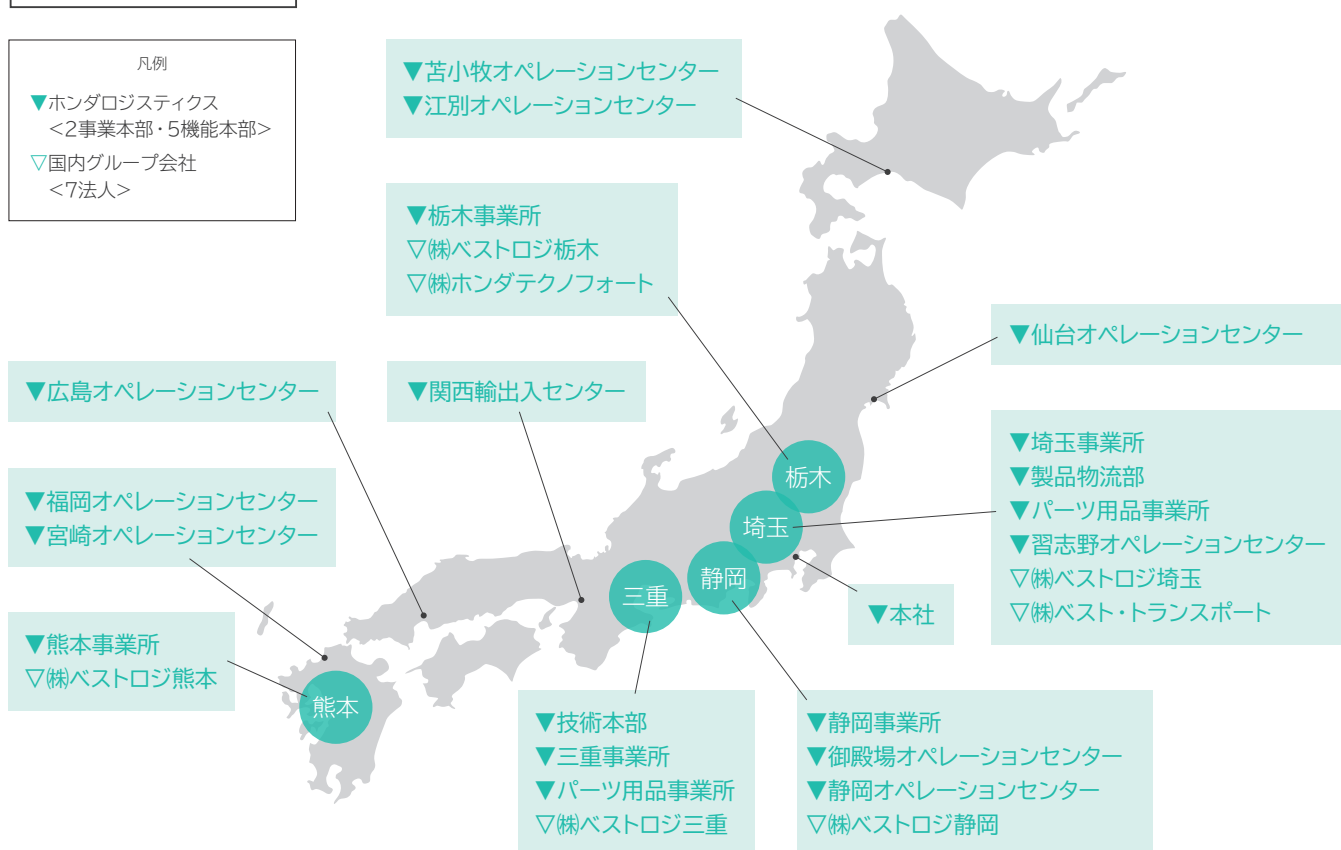
ビジネスモデル／バリューチェーンマネジメント



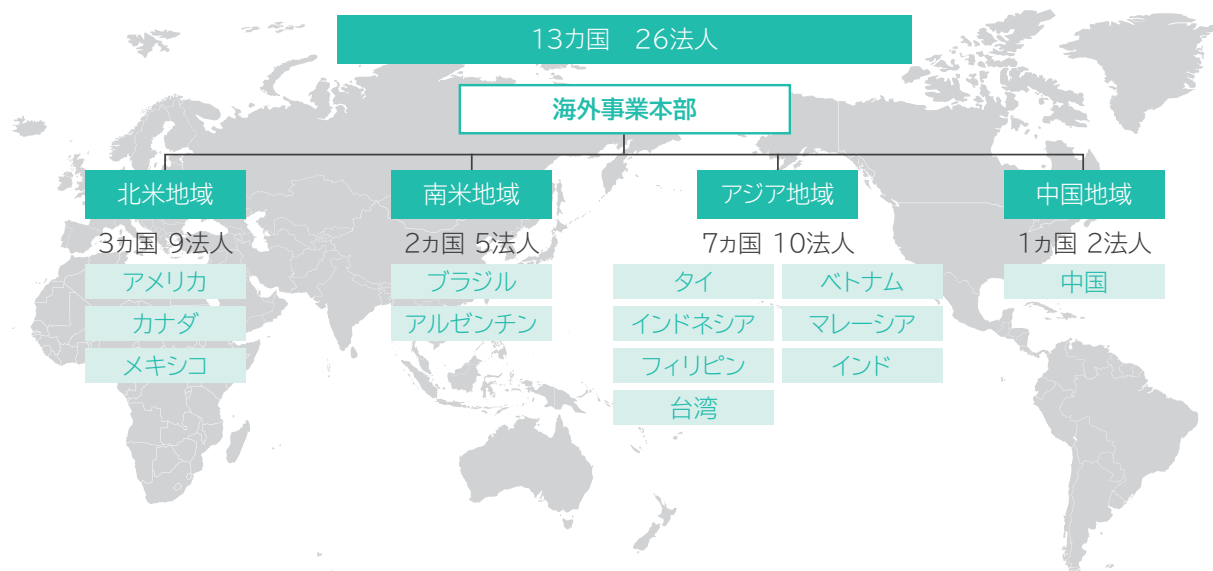
グローバルネットワーク

日本

- 凡例
- ▼ホンダロジスティクス
<2事業本部・5機能本部>
 - ▽国内グループ会社
<7法人>



海外



2023年4月時点

● 戦略

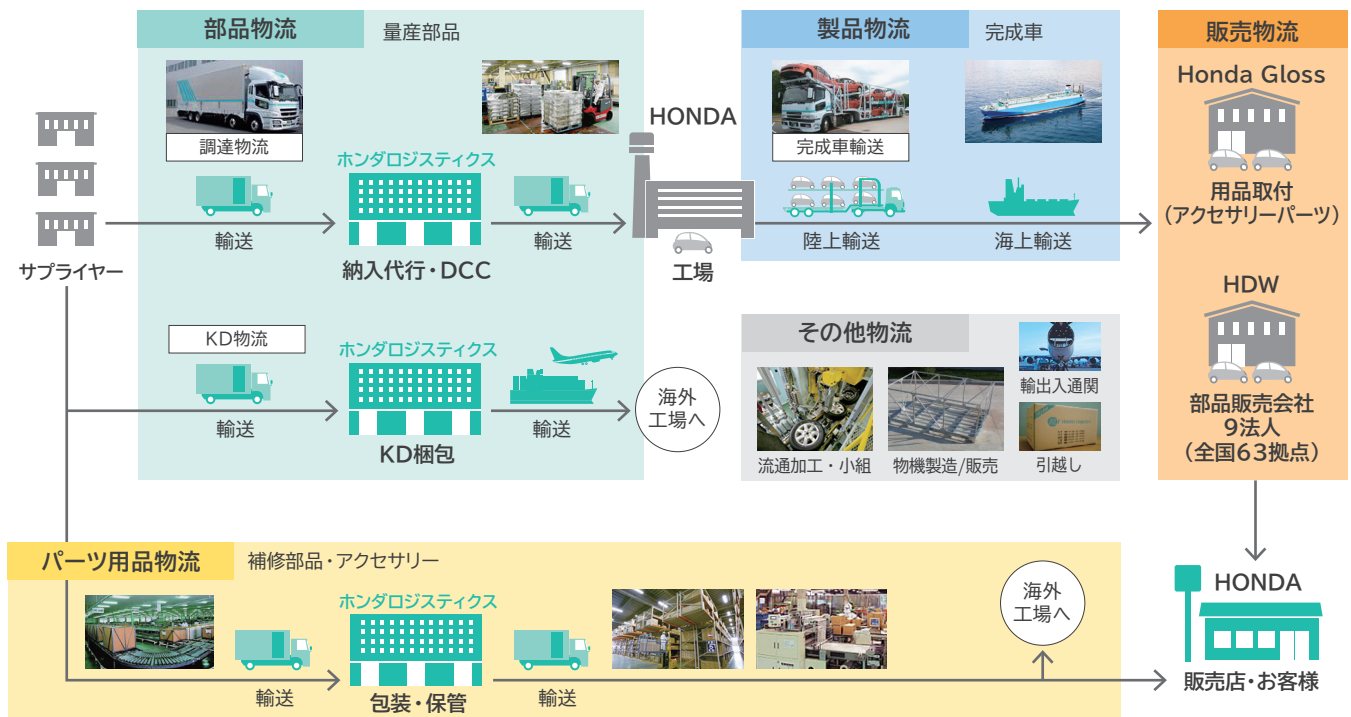
ビジネスモデル／バリューチェーンマネジメント



主な業務／HLIのバリューチェーンの概要

【 事業活動におけるバリューチェーンマップと環境課題 】

事業活動	部品物流				製品物流			販売物流		パーツ/用品物流		その他物流	
	調達物流		生産物流	KD物流	完成車輸送			Gloss	HDW	包装 保管	輸送	流通加工 小組	物流機器 製造・販売
	輸送	納入代行	DCC	KD梱包	陸上	海上	完成品梱包	用品取付	補修部品				
環境課題	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化
	大気汚染	廃棄物	廃棄物	廃棄物	大気汚染	大気汚染	廃棄物	廃棄物	大気汚染	廃棄物	廃棄物	大気汚染	廃棄物
		化学物質	化学物質	化学物質		海洋汚染	化学物質	化学物質		化学物質	化学物質		化学物質
		生物多様性	生物多様性	生物多様性			生物多様性	生物多様性		生物多様性	生物多様性		生物多様性



※1 DCC (Distribution & Consolidation Center): サプライヤー引き取りから、各納入先(製作所・KD・パーツ、二次サプライヤー)までの一貫物流業務
 ※2 KD (Knock Down): 海外向け部品のバンニング・保管・詰替え・検査及び輸送業務
 ※3 サプライヤー: 部品メーカー

戦略

バリューチェーンマネジメント／重要な環境課題の特定方法



環境配慮 施設／設備・サービスの状況

【 環境に配慮した施設・設備の拡充 】

ホンダロジスティクスは、環境に配慮した施設・設備を拡充しています。小川ロジスティクスセンターでは、太陽光発電システムを設置すると共に、高断熱高気密の建材を採用し、コンプレッサー・スポット空調・人感センサーなど省エネルギー設備を導入しています。また、高低差を活用し2階に搬入ピット、1階に商品出荷場を構える工程設計により、エレベーター作業を排し、製品移動の省電力化を実現しています。その他の全国各事業拠点に於いても、LED照明への切り替えを積極的に進め、消費電力の削減に努めています。



小川ロジスティクスセンター／太陽光発電システム



羽山ロジスティクスセンター／LED照明

【 環境対応車両の導入 】

輸送にともなう環境負荷を低減するために、当社の営業車両はすべて新長期規制適合車を導入しています。

また、デジタル式運行記録計※の導入により、各車両の動態の可視化により燃費の向上も図っています。



※デジタル式運行記録計
車両に搭載した機器により速度、時間、回転数などを自動的にメモリーカードに記録する装置

【 低燃費自動車専用船の導入 】

2014年度より低燃費技術を導入した新船による代替を順次進めています。

基本スペックを統一することにより、コストを抑えながら、エンジンの小型化、可変ピッチプロペラなどエンジン特性を最大限に引き出す環境に配慮した機能を付加しました。



ホンダロジスティクス 海外グループ

ホンダロジスティクスは、海外に積極的に展開しており、各現地法人においても環境負荷低減を目的とした投資を積極的に推進しています。

海外での取り組みの一例

【 太陽光発電システムの導入 】

台湾先進捷通股份有限公司(台湾)は継続的な環境目標達成のため、本社建物及び駐車場の屋根に太陽光発電システムを設置し、環境負荷低減に寄与しています。

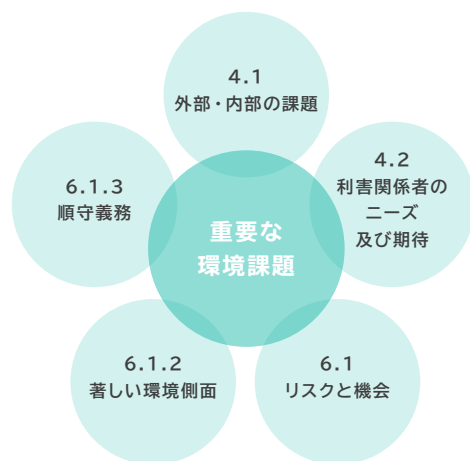


台湾先進捷通股份有限公司 太陽光発電システム

HLIの重要な環境課題

ホンダロジスティクスでは、ISO14001:2015年版の考え方にに基づき、強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)から「外部内部の課題」「利害関係者のニーズと機会」、施設や設備などから「著しい環境側面」「順守義務」を整理して「リスクと機会」を洗い出し、顕在化させた「重要な環境課題」について全社で取り組みを行っています。

2022年度の重要な環境課題については、環境への影響度等に基づき、「廃棄物の適切管理(順守評価・産廃処分現地確認等)」、「フロン類の適切管理(点検、記録保存、廃棄時のフロン回収)」、「環境緊急事態対応(訓練・流出防止用資機材)」、「環境関連法令の順守(順守評価・知識習得)」などが重要であると判断し特定しました。



ISO14001:2015年版 要求事項より

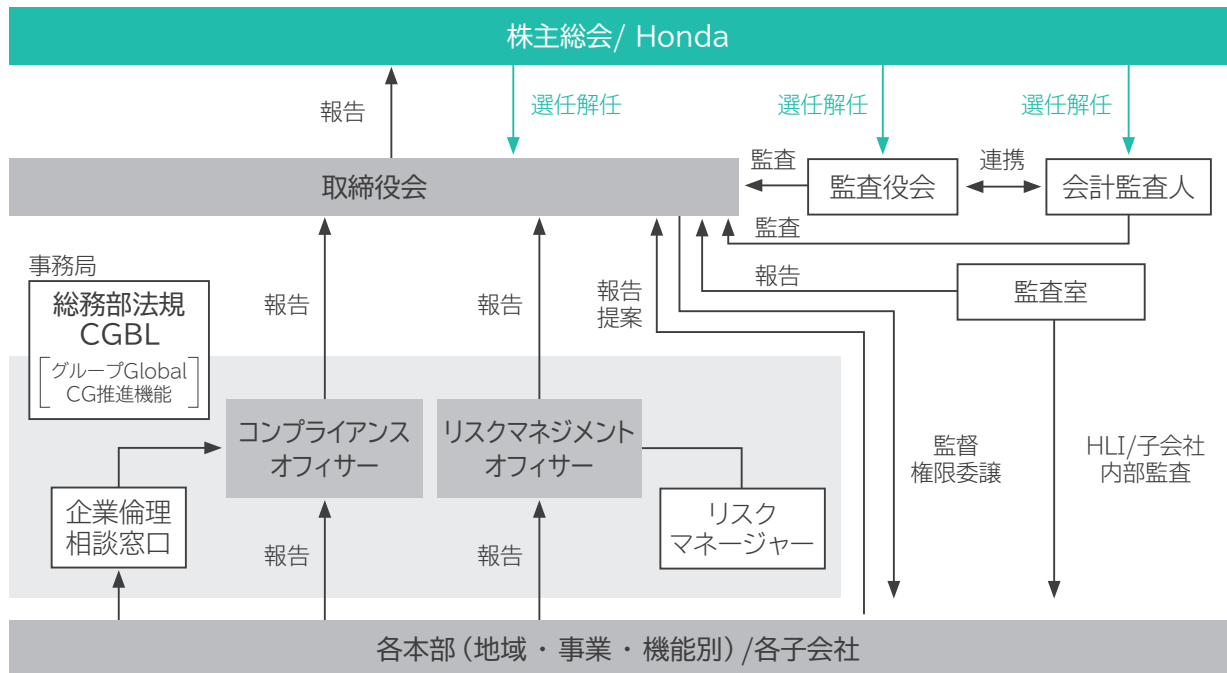
ガバナンス

コーポレートガバナンス



ホンダロジスティクス（以下、HLIという）は、国内グループ及び海外グループを含めたHLIグループの健全な企業経営を目指すために、「HLIグループコーポレートガバナンス体制」を構築して、ガバナンスの強化を図っています。

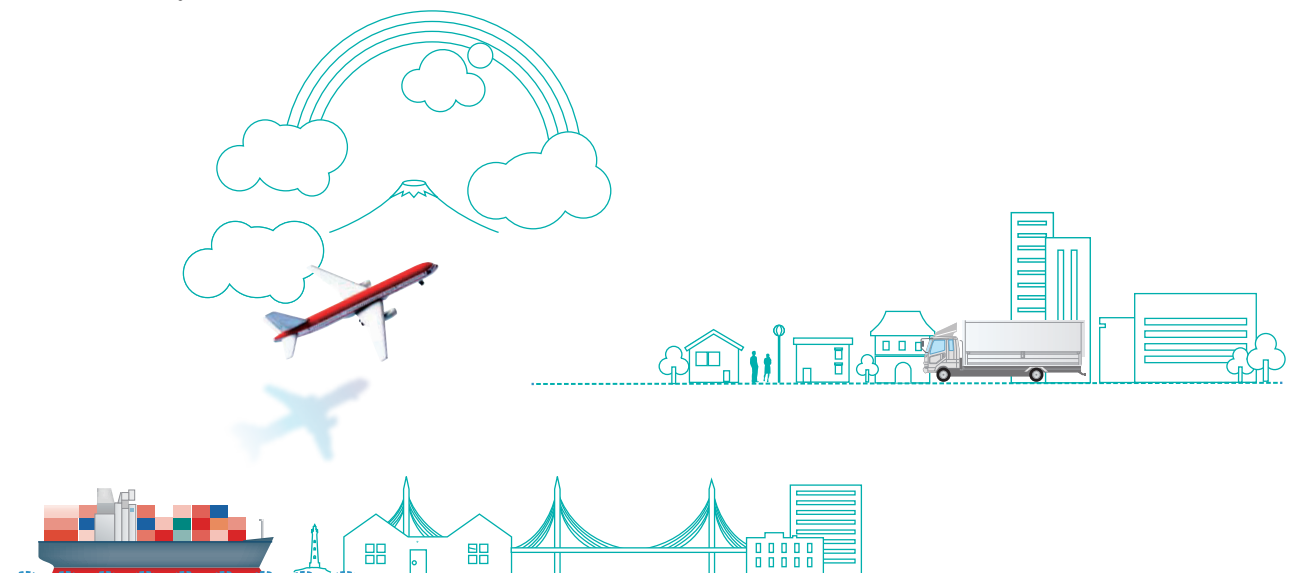
コーポレートガバナンス体制図



2023年4月時点

【コンプライアンス】

ホンダロジスティクスは、法令・社内ルールへの順守状況を評価するために、CG自己検証を実施しています。最新の環境法令や法令改正内容を反映した「コンプライアンスチェックリスト」を用いて年に1度実施しています。2022年度において、重大な環境法令違反の発生はありませんでした。



ガバナンス

リスクマネジメント

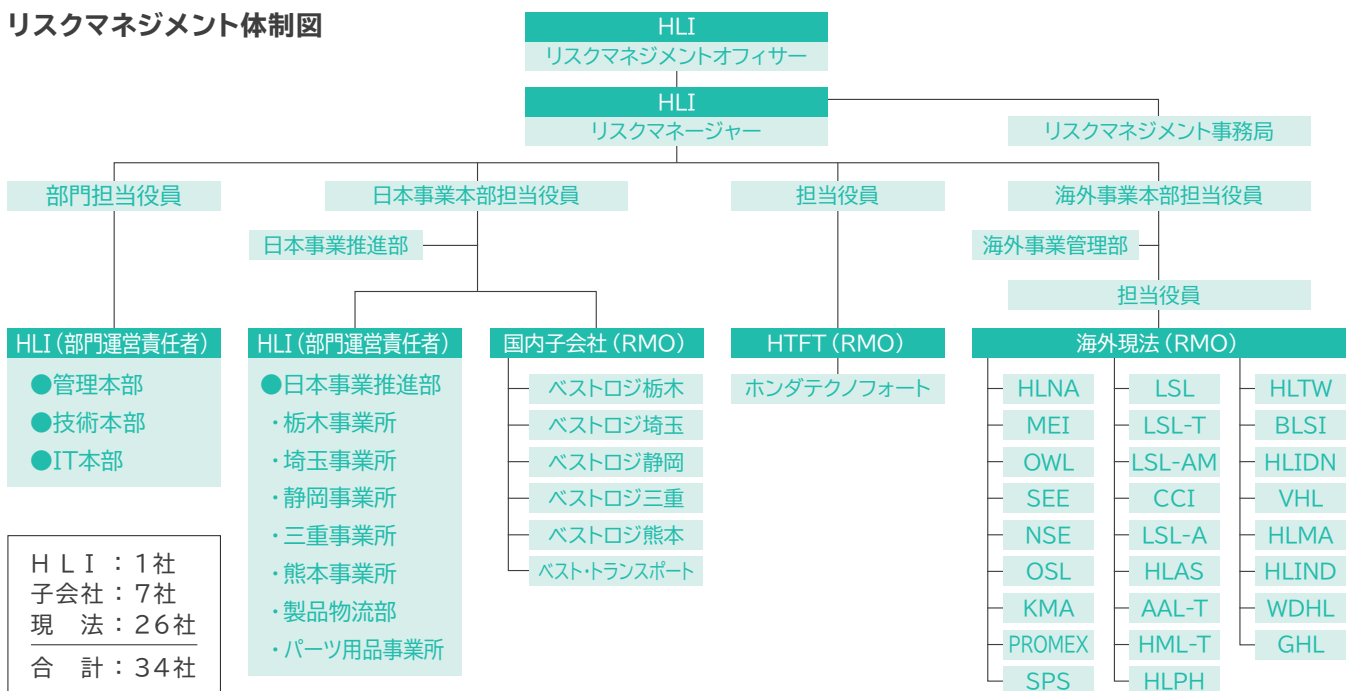


リスクマネジメント体制の整備

ホンダロジスティクス（以下、HLIという）は、グループ会社までを適用範囲として含む「HLIグループグローバル リスクマネジメント規程」を制定しています。この規程は、Hondaフィロソフィーに基づく企業活動の持続的な発展や経営の安定化を図ることを目的とし、事業に影響あるすべてのリスクを対象としています。

HLIグループの各組織は、それぞれ自立したリスクマネジメント体制を構築し、自らの責任において、リスクマネジメントを推進しています。主な取り組みとして、Hondaグループ共通の手法・ツールを使用し、リスクを特定・評価・対応する「リスクアセスメント」をHLIグループ全社で行っています。危機が発生した際には、影響度に応じて、危機対策本部を設置し危機対応にあたっています。

リスクマネジメント体制図

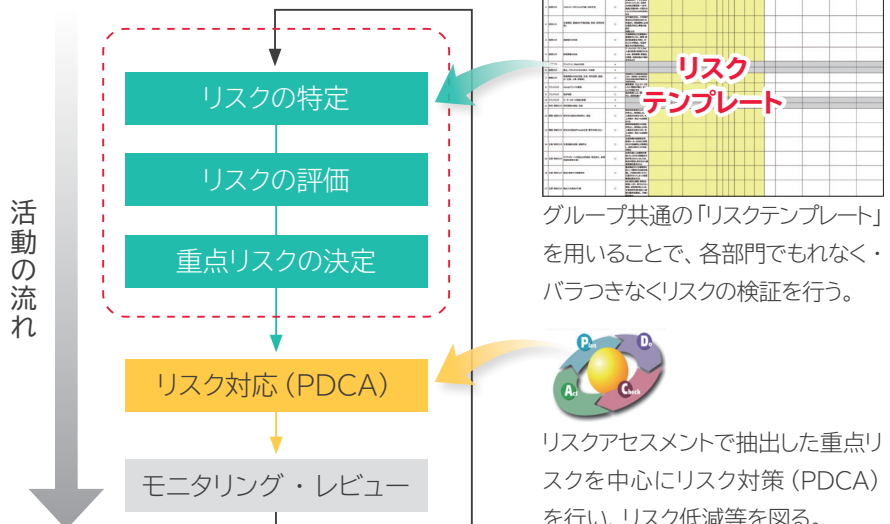


HLIグループ 日本国内：7社 海外現法 北米地域：9社 南米地域：5社 アジア地域：10社 中国地域：2社

出典：HLIグループ グローバルリスクマネジメント規程 2023年4月時点

リスクアセスメント活動

ホンダロジスティクスとグループ会社は、事業を取り巻く潜在リスクを予見し、事前に対応を行うことでリスクを極小化することを目的に、年1回リスクアセスメントを実施しています。Hondaグループ共通のツールを使用し、予見されるリスク項目について、評価基準に基づきリスク評価を行います。また、そのリスク評価の項目の中から「重点リスク」を選定し、リスク軽減の取り組みを行っています。発生したリスクを考慮し、また今後発生すると思われるリスクを想定し、「環境リスク」の顕在化と対応に繋げています。



パフォーマンス報告

環境目標と実績



「環境基本方針」の実現に向けて、具体的な環境負荷低減目標を定めて環境活動を展開しています。

全社目標（2020～2022年度）

原単位削減率（2010年度比）

項目	2020年度	2021年度	2022年度
固定源 (t-CO ₂ /㎡)	▲10%	▲11%	▲12%
移動源 (t-CO ₂ /トンキロ)	▲10%	▲11%	▲12%

単年度全社目標（2022年度）

原単位削減率（2010年度比）

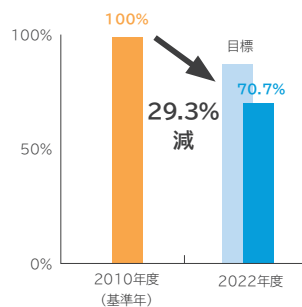
CO ₂ 排出量	▲12%以上
固定源排出量	t-CO ₂ /㎡あたり
移動源排出量	t-CO ₂ /トンキロあたり

削減達成状況

※基準年2010年度を100%として各原単位の増減が全体に対し何%まで削減しているかを表示

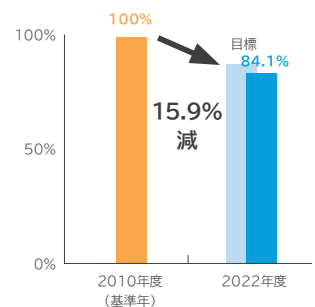
固定源CO₂排出量（原単位）

2022年目標値：2010年比『12%減』



移動源CO₂排出量（原単位）

2022年目標値：2010年比『12%減』



環境マネジメント

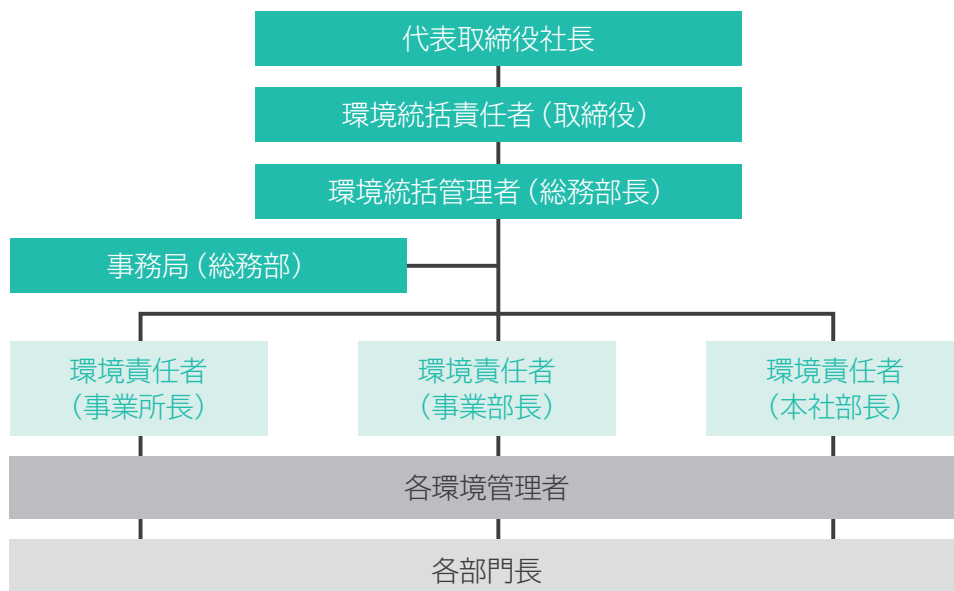


グリーンロジスティクスの実現に向けて、環境マネジメントを主体的かつ積極的に取り組んでいます。

環境推進体制

2008年1月に従来の事業所単位から変更し、全社統一の環境マネジメントシステム(EMS)を導入しています。

本部、事業所、事業部ごとに環境責任者、環境管理者を選任し、全社施策・課題協議のため、環境責任者会議、環境管理者会議等を開催しています。



パフォーマンス報告

環境マネジメント



ISO14001 認証取得

企業の継続的な発展に環境マネジメントシステムは不可欠との認識に立ち、1999年より、各事業所に環境マネジメントを導入し、ISO14001を認証取得しています。2009年に統合しマルチサイト化を経て、現在も環境マネジメントシステムに基づく活動を推進しています。

規格	ISO14001:2015 JISQ14001:2015
登録活動範囲	・自動車用部品の調達物流 ・自動車用タイヤの組立
関連事業所	・ロジスティクスセンター（三重県鈴鹿市） ・小川ロジスティクスセンター（埼玉県比企郡小川町）
認定機関	JAB および UKAS
審査機関	一般財団法人 日本品質保証機構

海外グループ会社 ISO14001認証拠点

- ・ Midwest Express Inc (アメリカ)
- ・ Simcoe Parts Service Inc (カナダ)
- ・ 武漢東本儲運有限公司 (中国)
- ・ Honda Logistics Asia Co.,Ltd. (タイ)
- ・ 广汽本田物流有限公司 (中国)

※2023年9月 時点



環境関連法令の順守

有害物質によって大気、水質、土壌などの自然環境が汚染されたり、騒音、振動などによって生活環境が悪化し、人間の健康で快適な生活に被害を及ぼす環境汚染の予防に関する法令・条例、協定・自主規制を遵守するために、環境管理者・環境推進委員・環境担当等の環境活動推進者を対象とした社内外の法令研修の開催や受講、法令データベースを活用し、環境関連法令の新規施行や改正に対して、迅速に対応しています。

また、産業廃棄物処理の委託取引先に対し、各自治体の条例に沿って産業廃棄物の処理能力を確認し、処分が終了するまでのすべての行程が適正に実施されているか、現地確認を定期的に行っています。



2022年開催 環境法令オンライン研修
研修内容：廃棄物管理・プラスチック資源循環促進法

環境監査

法令・規制要求事項が適合しているか、システムが有効に機能しているか、を確認するため、社内で編成された監査チームによる内部監査を実施し、登録機関による外部審査を受審しています。指摘事項に対しては、迅速に是正し、改善を図っています。



文書審査



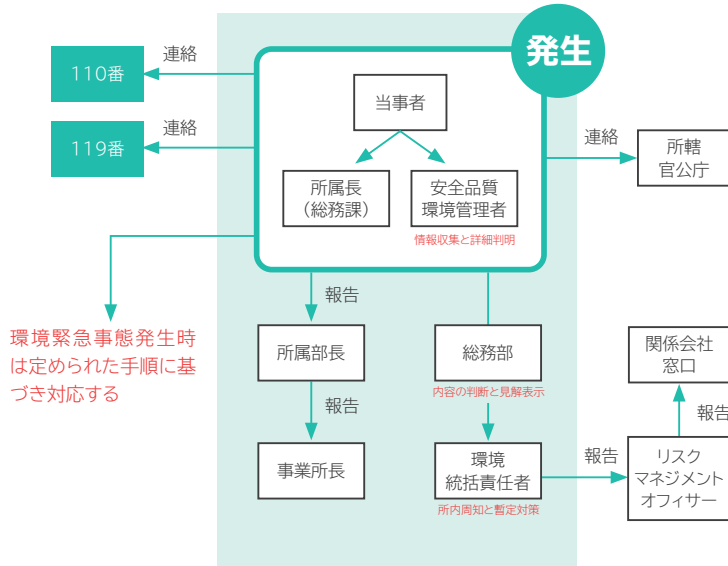
現場確認



パフォーマンス報告

緊急事態への対応

ホンダロジスティクスは、万一の事態を想定しオイル、燃料流出・火災の発生に備えて「環境緊急事態管理基準」を定め、訓練・テストを毎年実施しています。また、緊急事態が発生した場合は所轄官公庁への届出、地域近隣住民に対する避難、注意喚起を行う体制のもと、ルールに基づいて迅速な対応を図ります。



オイル・燃料流出対応訓練



消火訓練



避難訓練

環境会計



環境保全活動に関するコストを管理、分析、経営判断し、効果的かつ効果的なグリーンロジスティクスを推進しています。

環境保全コスト

単位：百万円

分類	主な取り組み内容	投資額	費用額
事業エリア内コスト	①公害防止コスト	0.0	76.4
	②地球環境保全コスト	161.1	87.8
	③資源循環コスト	0.0	103.1
④上下流コスト	環境配慮製品の購入、リサイクルなど	0.0	168.9
⑤管理活動コスト	環境関連要員の人件費、環境マネジメントシステムの維持、環境情報収集システム構築、社員への教育など	6.3	168.3
⑥研究開発コスト	リターナブル容器、無人搬送車などの研究開発設計など	8.3	102.3
⑦社会活動コスト	自然保護、緑化活動、地域イベントへの参画、環境保全団体への支援金など	0.9	2.7
⑧環境損傷対応コスト	土壌汚染の修復など	0.0	0.0
合計		176.7	709.4

- 集計対象：ホンダロジスティクス
- 集計期間：2022年4月1日～23年3月31日
- 公表した数値には一部推計値を含みます。
- 集計表の作成にあたっては、環境省より公表されているガイドライン、ガイドブックなどの環境会計に関する資料を参考としました。キャッシュフローをベースとし、減価償却費を除いた金額です。

物量効果

環境施策および環境保全コストによる効果を定量的に把握、分析しています。

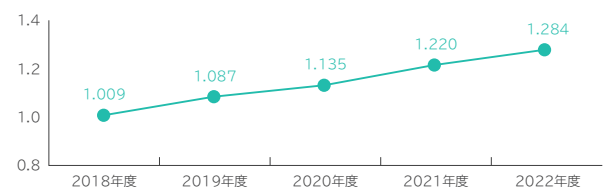
		2021年度	2022年度	前年差異
エネルギー使用量 (原油換算値)	kℓ	22,647	21,640	-1,007
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	45,115	43,254	-1,861
水資源使用量	m ³	62,906	60,009	-2,898
廃棄物総排出量	t	3,643	4,245	+602

※算定方法：エネルギー使用量集計方法変更、廃棄物から有価物除去／2022年度見直し

環境効率

下記計算式で環境効率を定義し、算出しています。

※ 計算式：事業規模(売上高)÷環境負荷(CO₂排出量)



パフォーマンス報告

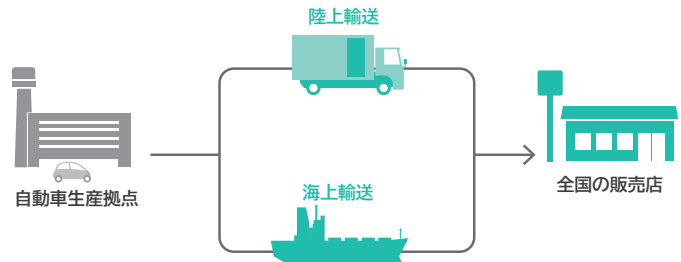
環境活動の取り組み



「全社環境方針」に基づき“顧客に効率的で環境負荷の少ない物流サービスや 製品を提案・提供する”ことでCO₂排出量の削減や地球温暖化防止に努めています。

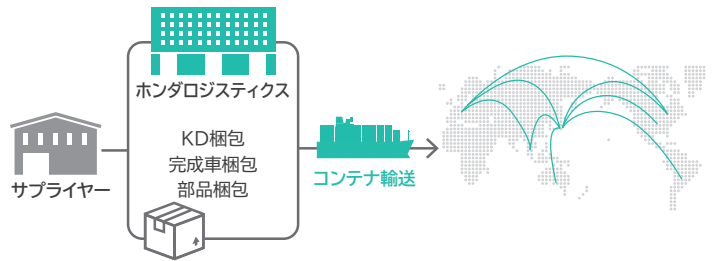
モーダルシフトを活用した物流

機動力のあるトラックと、環境にやさしく大量輸送が可能な船舶を効果的に組み合わせることにより、輸送の効率化と環境負荷低減の両立を実現



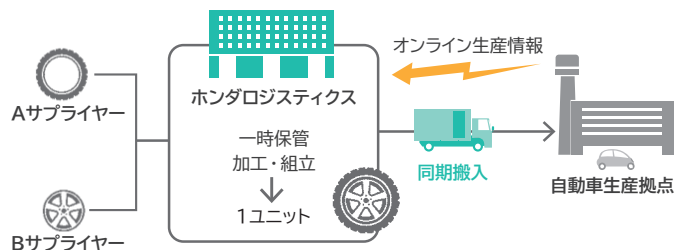
海上コンテナラウンドユースによる物流

輸出入で使用した空コンテナを港・倉庫に返却せず次の輸出入のタイミングを調整し転用することで空コンテナの配送を削減し、環境負荷低減を実現



生産ラインと連動した同期搬入

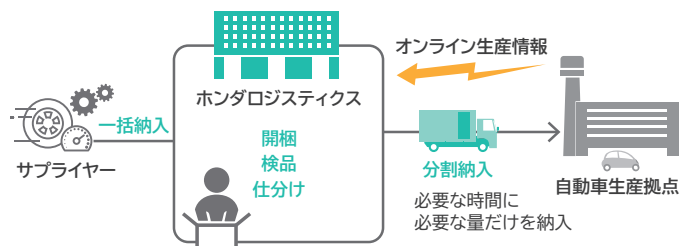
サプライヤーからの部品を各々生産拠点に供給するのではなく複数の部品をひとつの単位に組み立て、生産ラインと同期した搬入を行い、生産拠点への流入車両数を削減



DCC機能[※]による納入代行

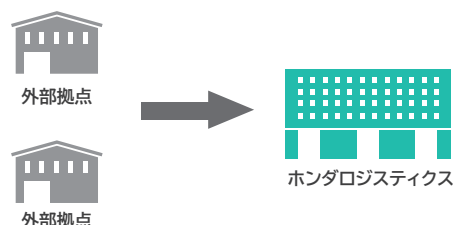
サプライヤーに代わり、部品の一括集約、開梱、検品、仕分けを行い、必要な時間に必要な量だけ、指定の部品を分割納入し、生産拠点への流入車両台数を削減

※ DCC機能：「Delivery Control Center」の略であり、生産ラインに同期して部品を供給する中継基地。主に大量・多品種に仕入れられた部品を、一時的に保管して、運送物流形態から必要に応じてラインに合わせた供給スタイルにして出荷する一連の業務。



物流拠点の集約

近在に点在している拠点を集約することで、拠点間を移動する車両台数を削減し、また、設備機器の効率的な運用により環境負荷を低減



パフォーマンス報告

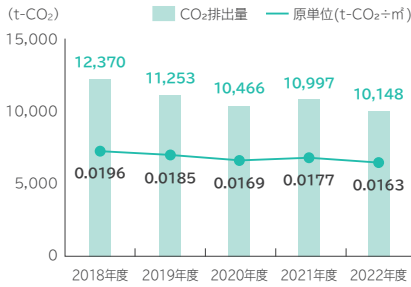
環境負荷実績



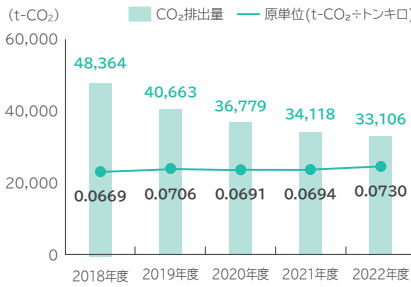
グリーンロジスティクスの実現に向け、グローバルな事業活動によるHLIグループ全体で環境負荷低減に取り組んでいます。国内および海外の2018年度～2022年度 CO₂排出量、水資源使用量、廃棄物などの発生量について報告します。

ホンダロジスティクス

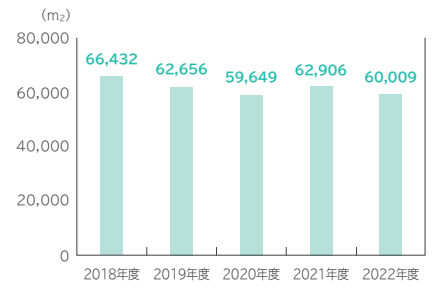
拠点の活動のCO₂排出量(固定源)



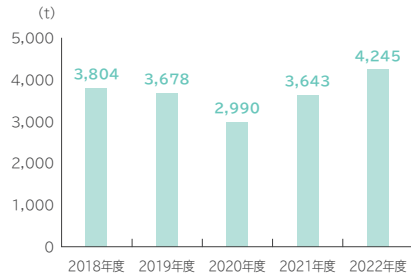
輸送活動のCO₂排出量(移動源)



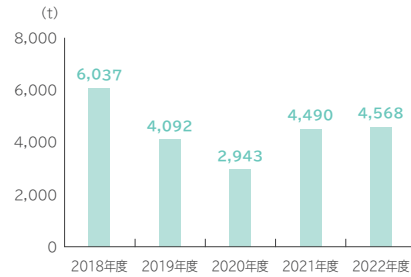
水資源使用量



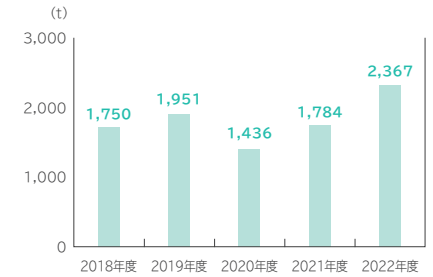
廃棄物発生量



有価物発生量

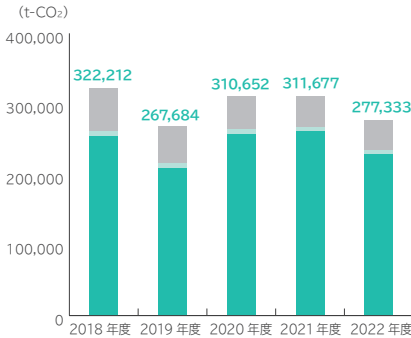


廃プラスチック類発生量

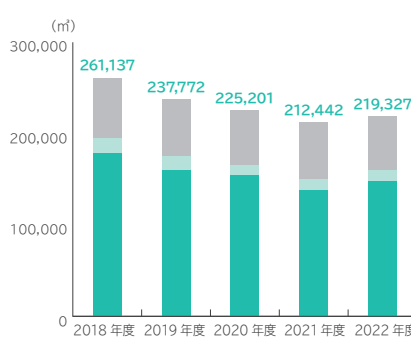


ホンダロジスティクスグループ

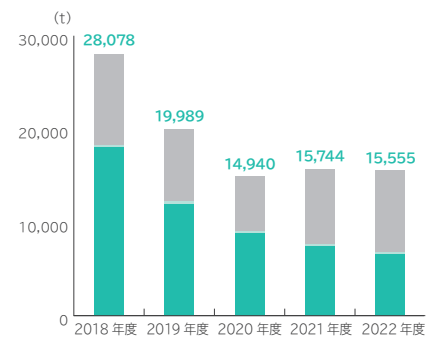
CO₂排出量



水資源使用量



廃棄物・リサイクル発生量



サプライチェーン排出量

省エネ法などで管理が義務付けられている温室効果ガス (GHG) 排出量、スコープ1、スコープ2に加えてスコープ3の管理にも取り組んでいます。

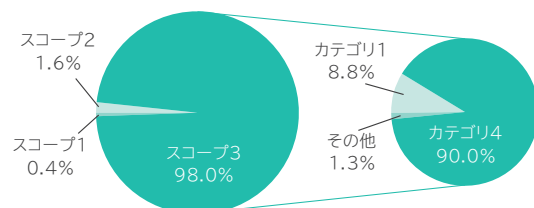
温室効果ガス排出総量

温室効果ガスの内訳		2021年度	2022年度
スコープ1：直接排出		2,597	2,602
スコープ2：エネルギー起源の間接排出		10,248	9,429
スコープ3：その他の間接排出	カテゴリ1	52,142	50,352
	カテゴリ4	534,846	521,466
	その他	7,506	8,713
合計		594,494	580,532
温室効果ガス排出総量		607,339	592,563

Scope1：自社での燃料の使用や工業プロセスによる直接排出
 Scope2：自社が購入した電気・熱の使用にともなう間接排出
 Scope3：Scope1,2を除くその他の排出量。15のカテゴリに分類されています。
 ・カテゴリ1：資源採取段階からサプライヤーまでの輸送や、包装材・事務用品などの物品の製造までの活動にともなう排出
 ・カテゴリ4：サプライヤーから自社に届くまでの輸送・荷役・保管にともなう排出
 ・その他のカテゴリの数字は、カテゴリ「2・3・5・6・7・12」の合計です。

温室効果ガス総排出量に占める割合

スコープ3に占める割合



パフォーマンス報告

モーダルシフトの推進

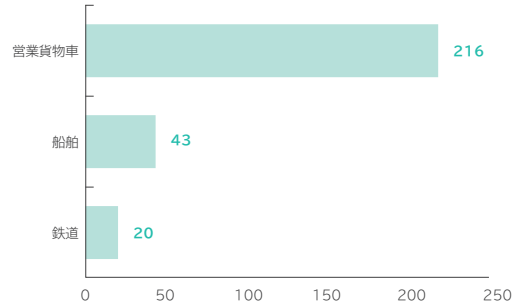


環境負荷低減施策の一環として「モーダルシフト」を推進しています。

モーダルシフトとは、より環境負荷の小さい手段に切り替える対策のことであり、トラック輸送と比べて、エネルギー節減、二酸化炭素、窒素酸化物の排出抑制、道路交通騒音の低減、労働力不足の解消などのメリットが期待されています。

輸送量当たりのCO₂排出量

g-CO₂/トンキロ (2021年度)



出典：運輸部門における二酸化炭素排出量(国土交通省)

海上輸送

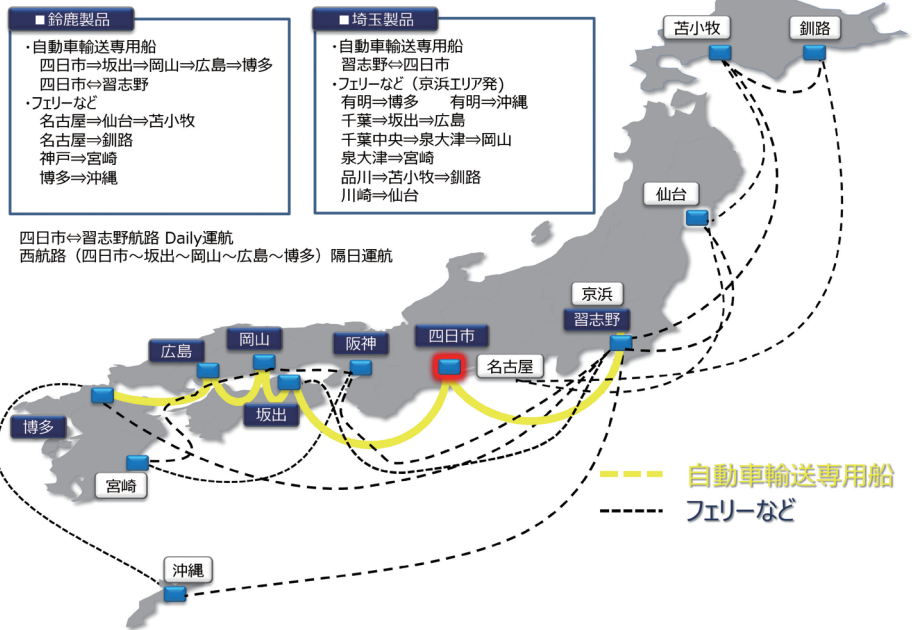
自動車輸送専用船4隻による、四輪完成車を大量かつ効率的に輸送できる海上輸送ネットワークを構築し、CO₂排出量の削減に大きな効果を発揮しています。

各自動車メーカーと共同輸送を展開しており自動車業界全体の地球環境保護に寄与しています。



※さくら：2021年6月に就航

Honda海上輸送 基本航路



鉄道貨物輸送

国内東西拠点間、サプライヤー工場からの幹線輸送の一部を鉄道貨物にシフトしています。

鉄道貨物輸送は、海上輸送と比べて待機ロスが発生しないため、確実な定時運行により運行ロスを削減でき、トラック輸送と比べて約1/6のCO₂排出量により地球環境保護に大きく寄与しています。

導入事例



パフォーマンス報告

循環型社会への取り組み



物流に欠かせない容器（機器）による環境負荷や廃棄物の削減、資材のリターナブル化に向けて、オリジナル物流機器の研究・開発・製造・販売を行っています。

また、資源循環の実現に向け、使用済みの包装資材の分別を徹底して、金属や紙、ダンボール、プラスチック類などのリサイクルや、搬入ケースのリユースにも取り組んでいます。

物流機器開発による環境負荷低減への貢献

リターナブルケースを利用した鉄道貨物輸送効率の向上

Before



JRコンテナ積載数
8台/コンテナ



コンテナ内段積み **不可**

After



輸送効率UP

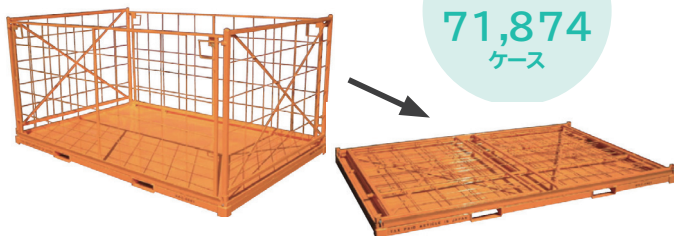
JRコンテナ積載数
16台/コンテナ

コンテナ内段積み **可**

※詳しくは「ホンダロジスティクス ホームページ」をご覧ください
<https://www.honda-logistics.co.jp/service/instrument/pdf/returnable.pdf>

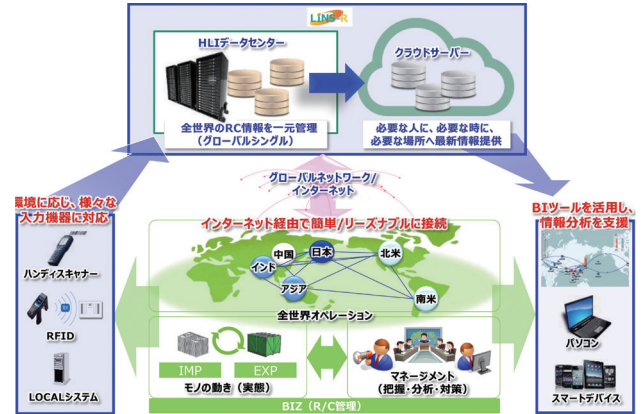
リターナブルケース商品特徴

- 繰り返し使用可能なため、廃材処理費を削減
- 回収時の折り畳みによりサイズを縮小化、保管スペースおよび輸送費を削減



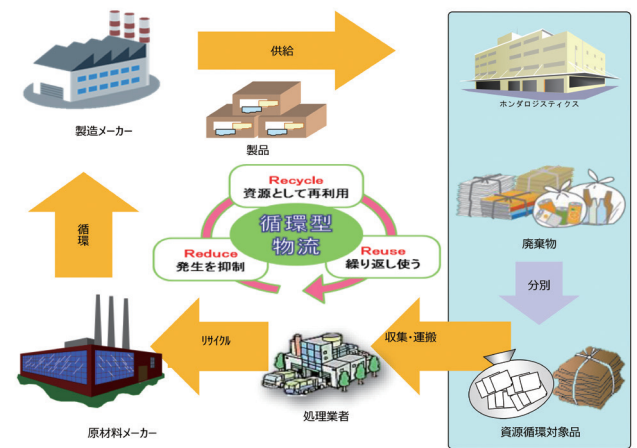
2022年度
販売実績
71,874
ケース

リターナブルケース個別流動管理システムのご紹介

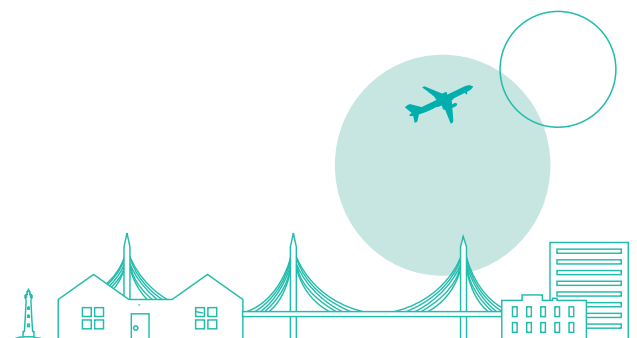


ホンダロジスティクスで開発した管理システムとホンダのシステムを連動させ、リターナブルケースの入庫、出庫、在庫管理をITツールによって可視化し、リターナブルケース個体単位での動態管理が可能です。

使用済み包装資材のリサイクル



確実な資源循環を行うために、資源循環の標準モデルを構築しています。



パフォーマンス報告

環境啓発活動への取り組み



「改善提案活動」や「QCサークル活動(小集団活動)」への参画を通して、業務のムリ・ムラ・ムダの排除に取り組んでいます。

さまざまな業務改善を行うことで、エネルギーや材料、廃棄物の削減などの環境負荷低減に貢献しています。

改善提案活動

改善提案とは、品質向上、経費の削減、事務/作業効率の向上、職場環境の向上、事故または災害防止、従業員の士気向上等のために有益な意見を提出する事です。

	2022年度 改善提案 実績			
	対象者	参加者数	提案件数	参加率
栃木	54名	54名	227件	100.0%
埼玉	145名	145名	613件	100.0%
静岡	82名	81名	201件	100.0%
三重	166名	166名	579件	100.0%
熊本	88名	81名	286件	100.0%
パーツ用品	163名	163名	1,630件	100.0%
本社	110名	108名	290件	100.0%
合計	808名	798名	3,826件	100.0%

※合計値は小数点以下を切り上げ

QCサークル活動

QCサークル活動では、日常の困りごとの解決や環境負荷低減などのテーマを選定し、職場の課題解決に向けた改善活動をグローバルに行っています。1年間のサークル活動の集大成として、優れた取り組みをしたサークルは、QCサークルの全社大会に出場し、成果を発表して、改善事例の共有化を図っています。



2022年度QCサークル全社大会

研修教育

新入社員、新任監督者、新任管理者に対して、環境マネジメントシステムに基づく環境研修を行うと共に環境管理者、担当者を対象に環境法令研修を実施しています。

さらに2017年度からは外部講師を招き、感性訓練の一環として環境リスクマネジメントの講習を実施しています。

2022年度は、より多くの方が参加できるように、オンラインでの研修を実施しました。



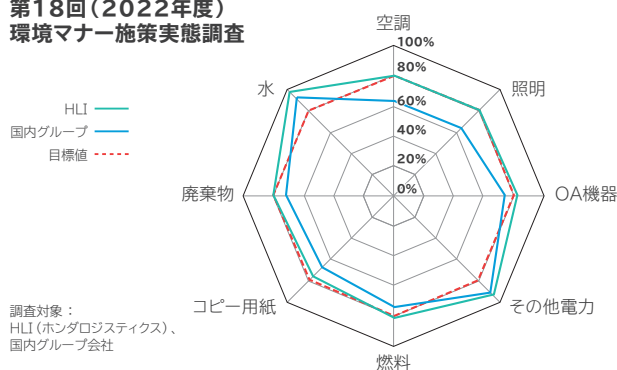
2022年度 環境関連法令研修

環境マナー向上活動

従業員一人ひとりが日常の中で環境に寄与できる行動を確実に実践するため、環境マナー向上施策の推進を2009年度から開始し、毎年、全従業員を対象に実態調査を実施しています。

ISO14001:2015に対応して項目の追加・見直しなどを行いながら、全調査項目のレベルアップに向けて更なる活動を推進しています。

第18回(2022年度) 環境マナー施策実態調査



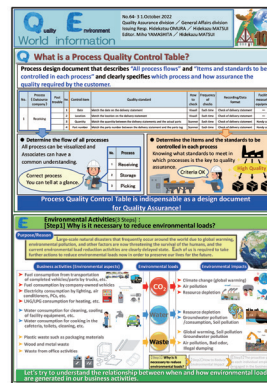
社内コミュニケーション

従業員一人ひとりが環境意識を持って、行動へ繋げられるようにさまざまな啓発ツールを用いて、社内コミュニケーションを図っています。

社内広報(QEワールドインフォメーション)の発行/掲示



日本語版



英語版

カーボンニュートラルポスター掲示



環境活動啓発バッジ配布



パフォーマンス報告

生物多様性



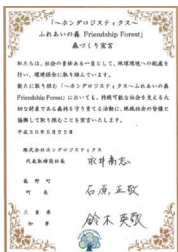
Hondaは企業活動が生物多様性に影響を及ぼす可能性があることを認識し、その重点取り組み領域を「生物多様性ガイドライン」に定めています。

ホンダロジスティクスとしてもHondaグループの一員として、生物多様性の保全への取り組みが必要と考え、CSR活動を推進しています。

森林保全活動

2017年より三重県・菟野町・NPO法人森林の風様の協力のもと「ホンダロジスティクス ふれあいの森 Friendship Forest」を整備し、持続可能な社会を支える大切な財産である森林保全活動に地域社会の皆様と協働し積極的に取り組んでいます。

活動内容として、森林内の間伐や散策路の整備などを行っています。間伐をすることで、森林内に適度な光が射し込み、下層植生が豊かになり、多様な生物が生息しやすくなることが期待されます。



「～ホンダロジスティクス～ふれあいの森 Friendship Forest」森づくり宣言書



成長が早い常緑樹等を間伐し、薄暗い森林の土壌へ光を入れる



傾斜地を歩きやすく整地し、間伐材を土留めとして活用

特定外来種への対応

生態系や人の生命・身体、農林水産業を脅かすヒアリ等の特定外来種に対して、各事業所では環境省、各都道府県庁や自治体からの情報を基にその発生に注意を払い、対策について情報を共有しながらすすめています。

発生が疑われる場合には省庁などの立ち入り調査に積極的に協力し、特定外来種の防除に努めています。



環境省、県庁、専門家による立ち入り調査対応



地域清掃活動

新型コロナウイルス感染対策を施して三密を避けながら、会社の周辺清掃や海岸清掃を行い環境美化を通じて地域に貢献しています。



栃木事業所



熊本事業所



静岡事業所



三重事業所



製品物流部



パーツ用品事業所



埼玉事業所



技術本部



東京本社



ホンダさつき会 浜名湖クリーン作戦 内山海岸（静岡事業所）



Hondaビーテクリーン 石狩浜海水浴場（栃木事業所 北海道ゾーン）



ホンダロジスティクスは産業廃棄物のリサイクル化に積極的に取り組んでいます。また、2022年4月1日に施行された「プラスチックに係る資源循環に関する法律」（略称：プラスチック循環促進法）においては、多量排出事業者の責任として、プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出の抑制・再資源化等に関する目標を定め、これを達成するための取り組みを計画的に行っております。

<ポスターによる啓発活動>

従業員一人ひとりが自ら行動してもらう為、【意識向上】に向けた啓発活動の一環として、「プラスチック循環促進法」におけるポスターを掲示し、環境責任者の取り組みに対する『思い』を記載し、従業員と共有しています。

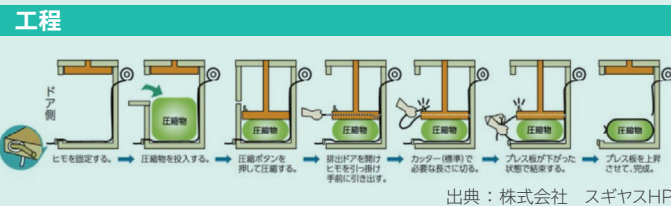


出典：環境省

<圧縮減容梱包機によるCO₂排出抑制への取り組み>

栃木事業所では、2022年12月より圧縮減容[※]梱包機を導入しています。廃プラスチック（ストレッチフィルム）を圧縮減容することで、廃棄物収集運搬回数を減らし、運搬にかかるCO₂排出量の抑制に繋がっています。

※圧縮減容…圧力をかけて容積を小さくすること



圧縮例



- 導入機器：プレスキーローラー
- ➔11/30～12/1作業習熟訓練
- ➔12/5所内安全・品質確認検証
- ➔12/6より稼働

●導入効果：収集運搬回数4回/月 ➔ 1回/月

情報提供：栃木事業所

● 環境報告ガイドライン対照表

環境省「環境報告ガイドライン2018年版」に沿って本レポートを作成しました

	開示事項	ページ
第1章 環境報告の基礎情報		
1. 環境報告の基本的要件	会社情報	2
2. 主な実績評価指標の推移	会社情報	2
第2章 環境報告の記載事項		
1. 経営責任者のコミットメント	環境統括責任者緒言	3
2. ガバナンス	ガバナンス	9
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況	ビジョンとマネジメント方針	4-5
4. リスクマネジメント	リスクマネジメント	10
5. ビジネスモデル	ビジネスモデル	6-7
6. バリューチェーンマネジメント	バリューチェーンマネジメント	6-8
7. 長期ビジョン	ビジョンとマネジメント方針	4-5
8. 戦略	ビジョンとマネジメント方針	4-5
9. 重要な環境課題の特定方法	重要な環境課題の特定方法	8
10. 事業者の重要な環境課題	ビジョンとマネジメント方針、環境目標と実績	4-5、11
主な環境課題とその実績評価指標		
1. 気候変動	環境負荷実績	15
2. 水資源	環境負荷実績	15
3. 生物多様性	生物多様性	19
4. 資源循環接続	循環型社会への取り組み	17
5. 汚染予防	環境マネジメント	11-13

編集後記

この度は環境レポートをご覧いただき、ありがとうございます。

2022年度はコロナ感染再拡大、ロシアのウクライナ侵攻など、先行きの不透明感を拭いきれない一年となりました。

環境活動においても、2050年の世界的なカーボンニュートラル実現に向けて企業としての責任を果たすべく《地球温暖化防止への最大限の努力》を続けてまいりました。今後も更なる大きな目標を掲げ、今やれる事・やるべき事を着実に実行・遂行しながらステークホルダーの皆様からのご期待に応えられる企業として、積極的に活動を進めてまいります。

記載内容についてのお問い合わせ先

株式会社ホンダロジスティクス
 総務部 環境ブロック
 Tel. 059-379-5502
 Fax. 059-378-5418

本レポートは、「ホンダロジスティクス ホームページ」にて、PDF形式のダウンロードが可能となっております。

<https://www.honda-logistics.co.jp/>

発行日：2023年12月
 発行：管理本部 総務部
 発行責任者：松井 秀和



株式会社 ホンダロジスティクス

東京都千代田区一番町6番地 一番町SQUARE 4階
TEL : 03-5357-1041 FAX : 03-5357-1061

<https://www.honda-logistics.co.jp/>